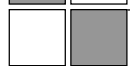


第4章

日進市の現状及び市民 の健康状態

第4章

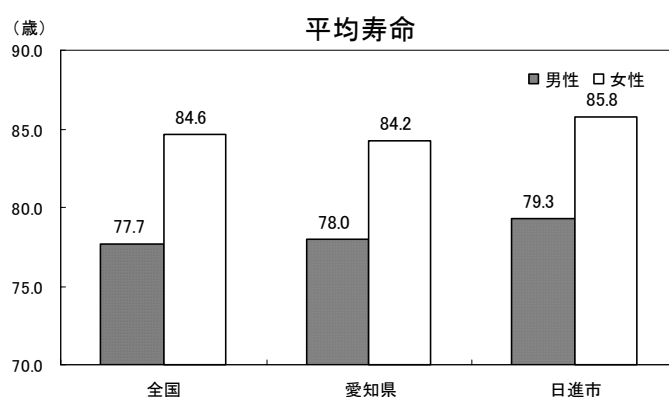


日進市の現状及び市民の健康状態

1. 統計から見た現状

(1) 平均寿命

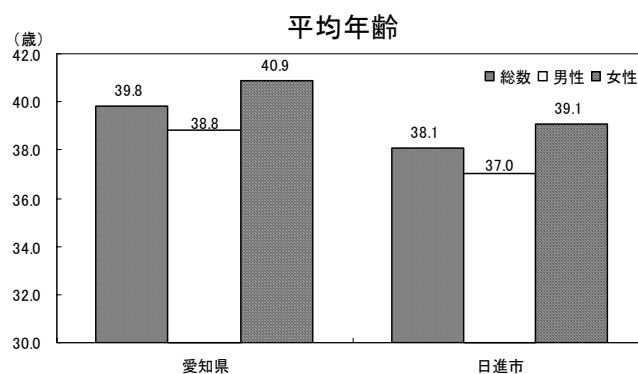
本市の平均寿命は、平成12年の市町村別生命表によると男性が79.3歳、女性が85.8歳と男女ともに全国及び愛知県より長くなっており、愛知県内では女性の平均寿命は第1位、男性は長久手町に次いで第2位という結果となっています。また、平均寿命の男女差は6.5歳となっています。



出典：厚生労働省 市町村別生命表（平成12年）

(2) 平均年齢

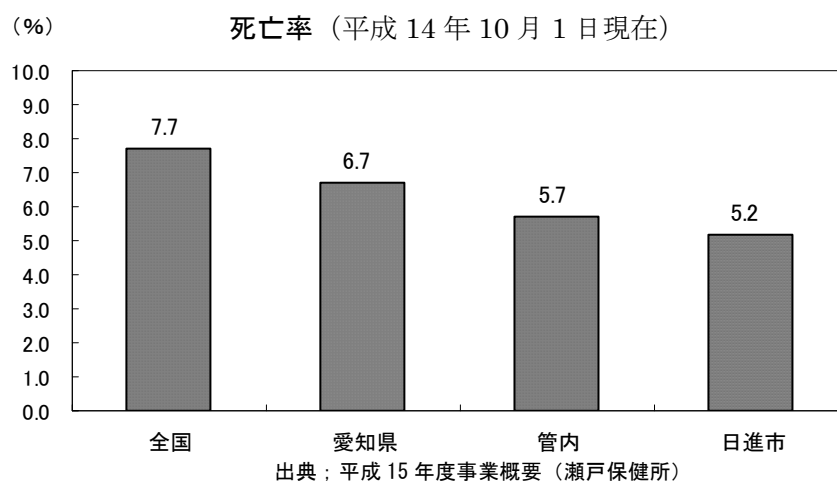
本市の平均年齢は、総数で38.1歳、男性が37.0歳、女性が39.1歳となっており、男女差は2.1歳となっています。また、愛知県と比較した場合、愛知県は総数が39.8歳、男性が38.8歳、女性が40.9歳であり、すべての項目において、本市の平均年齢が下回っており、若干でも本市は若いまちであるといえます。



出典：あいちの人口（平成12年度）、国勢調査

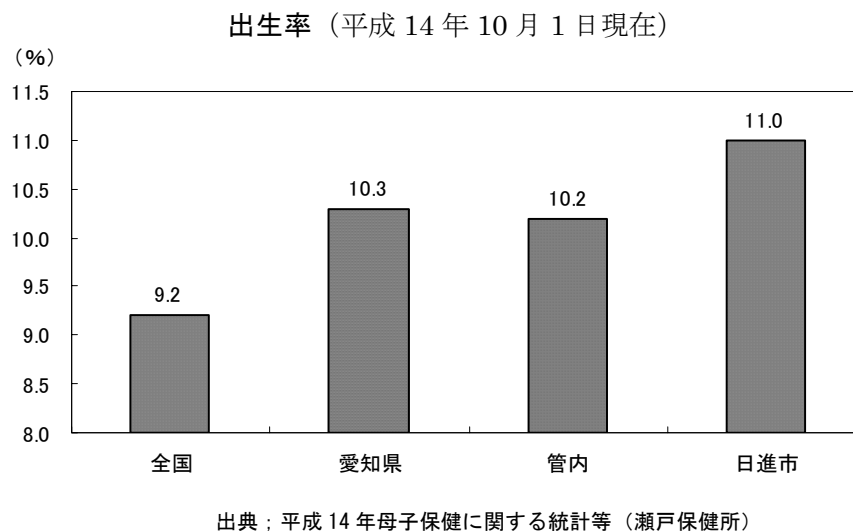
(3) 死亡率

本市の死亡率は、平成14年10月1日現在で5.2%となっており、全国の7.7%、愛知県の6.7%、さらに瀬戸保健所管内の5.7%と比較して最も低くなっています。



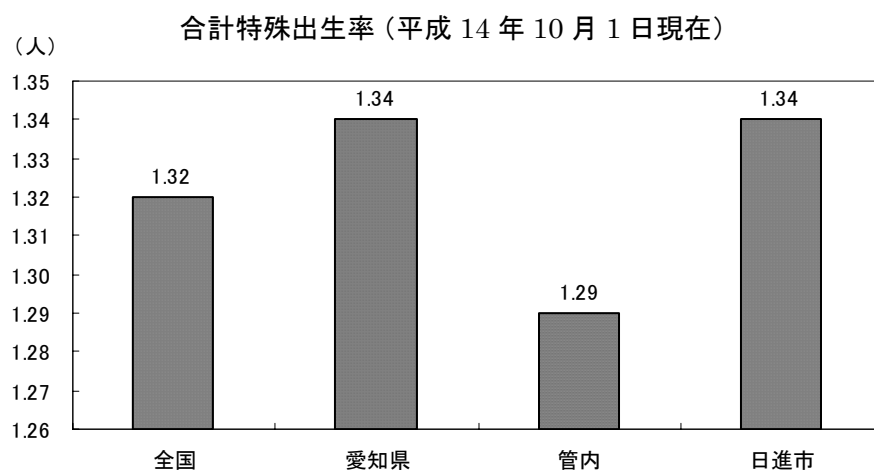
(4) 出生率

本市の出生率^{*1}は、平成14年10月1日現在では11.0%となっており、全国の9.2%、愛知県の10.3%及び瀬戸保健所管内の10.2%と比較して高くなっています。



(5) 合計特殊出生率

本市の合計特殊出生率*²は、平成14年10月1日現在では1.34人で愛知県と同等であるが、全国の1.32人、瀬戸保健所管内の1.29人と比較すると高くなっています。



出典；平成14年母子保健に関する統計等（瀬戸保健所）

* 1 出生率

$$\text{出生率} = \frac{\text{出生数}}{\text{人口}} \times 1,000$$

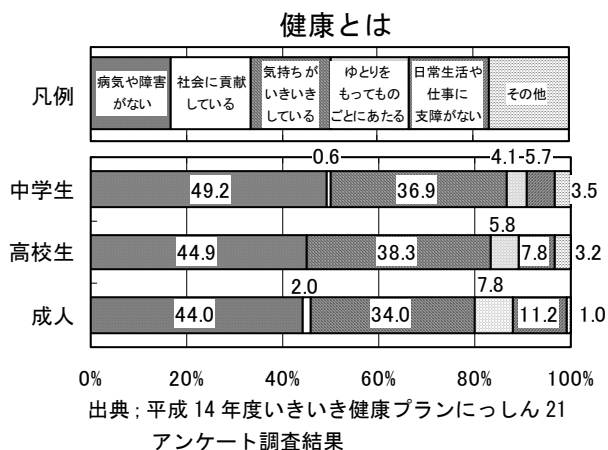
* 2 合計特殊出生率は、女子の年齢別出生率の合計で、1人の女子がその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとした時のこどもの数を表す。

$$\text{合計特殊出生率} = \left\{ \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女子人口}} \right\} \text{15歳から49歳までの合計}$$

2. 健康に対する意識と健康状態

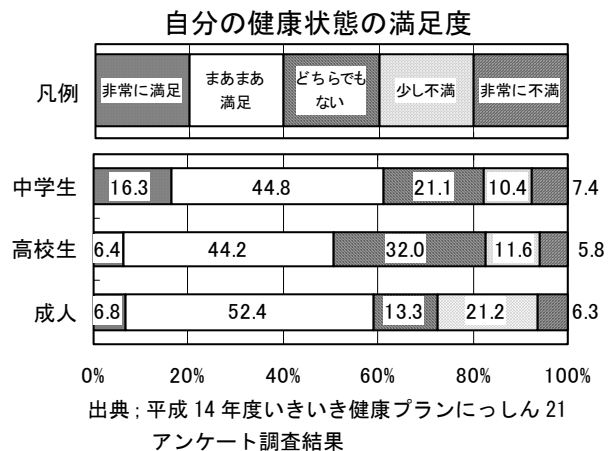
(1) 健康とは

「健康とはどのような状態ですか」という設問に対して、成人、高校生、中学生ともに、「病気や障害がない」と答えた人の割合が4割以上と最も高く、次いで「気持ちがいきいきしている」となっており、成人、高校生、中学生ともに同様の傾向となっています。



(2) 自分の健康状態の満足度

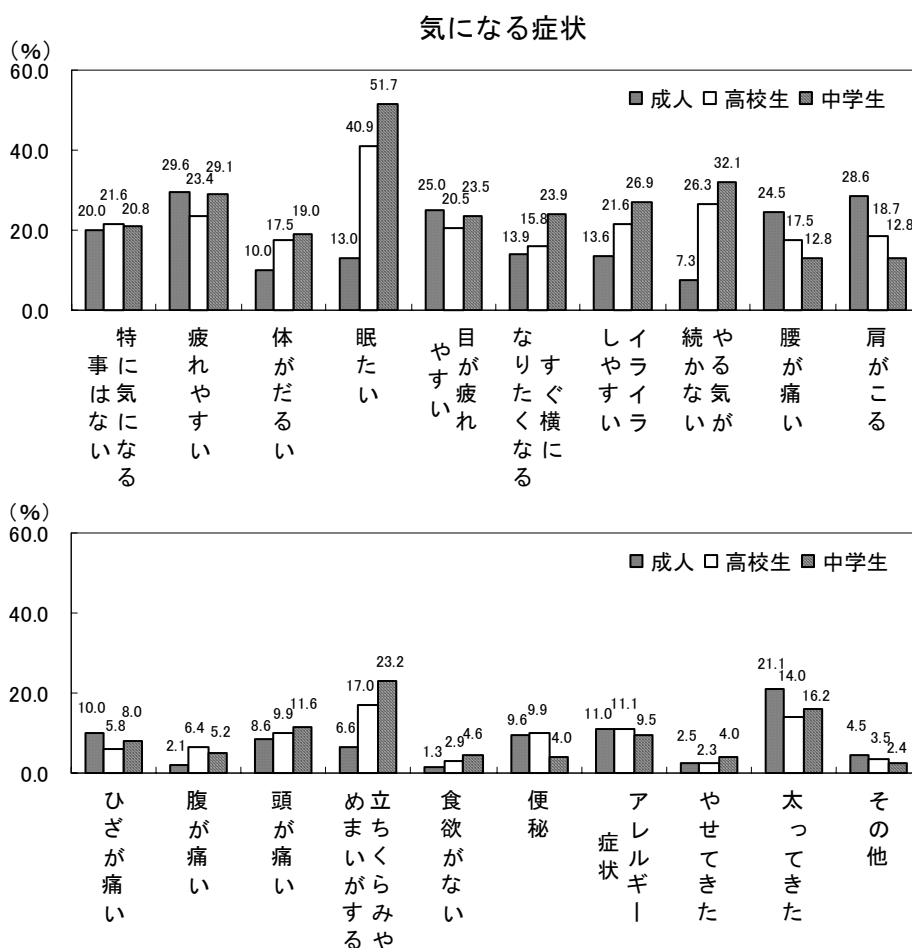
自分の健康状態の満足度については、「非常に満足」、「まあまあ満足」と答えた人の割合が中学生では61.1%と最も高くなっており、次いで成人の59.2%、高校生の50.6%となっています。また、「どちらでもない」を除いた「少し不満」、「非常に不満」と答えた人は、成人で27.5%と最も高く、次いで中学生の17.8%、高校生の17.4%となっています。



(3) 気になる症状

成人、高校生、中学生を対象に「自分の体で気になる症状はありますか」という設問に対し、成人では突出した結果はありませんが「疲れやすい」、「肩がこる」、「目が疲れやすい」などの疲労感を感じている人や「腰が痛い」、「太ってきた」と答えた人が多くなっています。

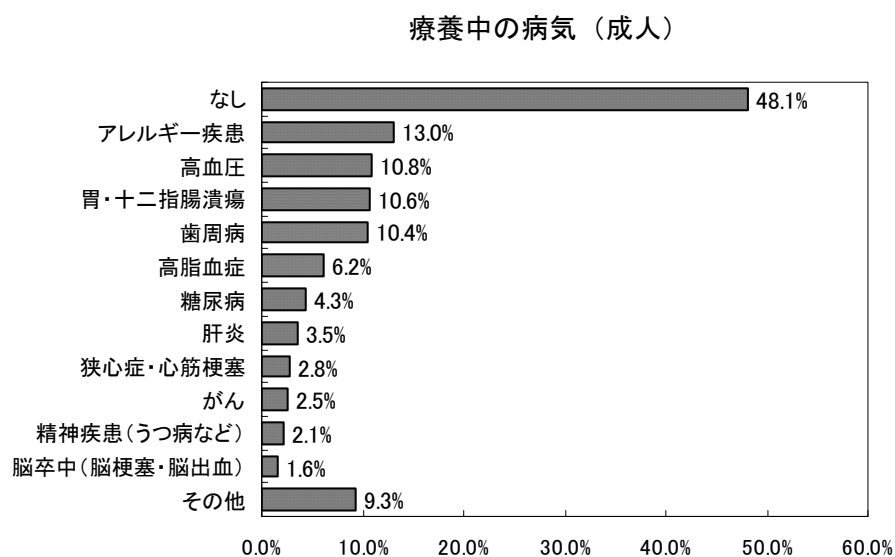
高校生及び中学生では、ともに「眠たい」と答えた人が最も多く、次点の項目と比較しても1.5倍以上多くなっています。次いで「やる気が続かない」、「疲れやすい」、「イライラしやすい」の順となっており、成人とは異なり疾患からくる症状ではなく、睡眠不足などの生活習慣の問題からくる健康状態を気にしている人が多くなっています。



出典：平成14年度いきいき健康プランにっしん21
アンケート調査結果

(4) 療養中の病気

成人に対して療養中の病気についての設問では、「なし」と答えた人が全体の48.1%となっています。対して療養中の病気としては、「アレルギー疾患」が13.0%で最も高く、次いで「高血圧」、「胃・十二指腸潰瘍」、「歯周病」となっており、生活習慣に係わる疾患が多くなっています。

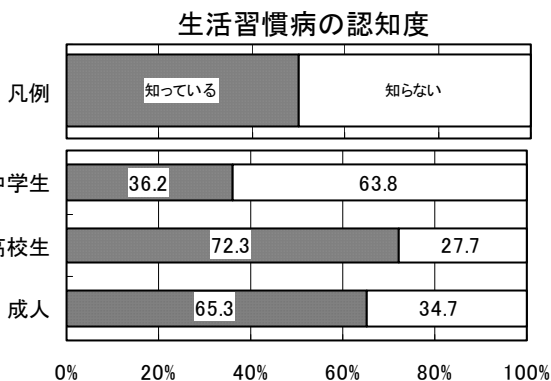


出典：平成14年度いきいき健康プランにっしん21
アンケート調査結果

(5) 生活習慣病の認知度

生活習慣病の認知度については、「知っている」と答えた人の割合は、高校生では72.3%と最も高く、次いで成人の65.3%となっています。

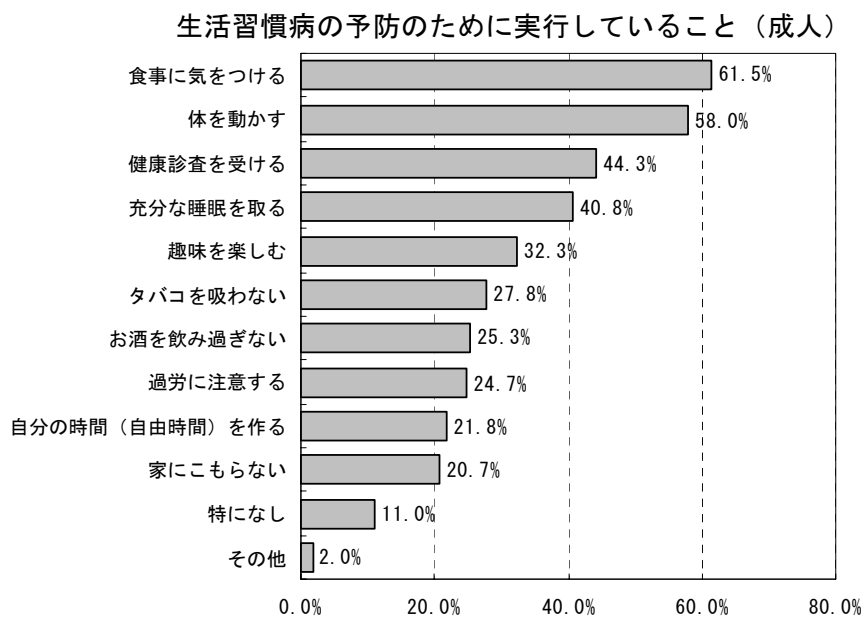
また、中学生では、「知っている」と答えた人の割合が36.2%と最も低く、生活習慣病であるがん、循環器病、糖尿病について、中学生では身近な疾病として生活習慣病の認知度はかなり低いのが現状です。



出典：平成14年度いきいき健康プランにっしん21 アンケート調査結果

(6) 生活習慣病の予防のために実行していること

成人に対しての生活習慣病の予防のために実行していることに対する設問について、「食事に気をつける」が61.5%と最も高く、次いで「体を動かす」の58.0%、「健康診査を受ける」が44.3%となっており、栄養・食生活と身体活動・運動の分野が市民の意識でも生活習慣病の予防策として意識が高くなっています。



出典：平成14年度いきいき健康プランにっしん21 アンケート調査結果

3. ヒアリングから見た市民の健康意識・取り組み

(1) 調査目的

市民の健康状態の実態は、統計的データの分析やアンケート調査の分析のみでは把握しづらいため、ヒアリング調査を実施しました。ヒアリング調査は、職域における保健活動や健康づくりへの取り組みとしては市内の企業を対象に、また、本市において健康に密接に関係した活動をしているボランティア団体を対象に、実施しました。さらに、学校保健の領域としては市内の小学校・中学校全校の養護教諭を対象に意見収集を実施しました。

いきいき健康プランにっしん 21 の計画策定において、市民の健康状態の把握と計画における施策立案のための基礎資料として実施しました。

(2) 調査対象

ヒアリング調査では、対象者ごとにヒアリング項目について検討を行い、事前にシートを配布したうえで、その項目に従い実施しました。

1) 企業 A (自動車部品の製造、機械加工会社)

調査時期・場所・人数

平成 15 年 7 月 企業 A 参加者 3 名

会社概要

従業員数：正社員 314 名、パート・派遣社員 12 名、その他含め、計 380 名
勤務形態、労働時間：正社員（日勤者）8 時 00 分～17 時 00 分 生産ライン 8 時間 2 交替制

健康管理者の状況：非常勤 1 名（健康診断、健康相談等の実施）

専用の健康増進施設：食堂内に卓球台、パターゴルフの練習用具

2) 企業 B (システム・エンジニアリング、ソフトウェア開発会社)

調査時期・場所・人数

平成 15 年 7 月 企業 B 参加者 2 名

会社概要

従業員数：(正社員のみ) 男性 620 名、女性 160 名
勤務形態、労働時間：正社員（日勤者）8 時 30 分～17 時 30 分
（フレックス・タイム、裁量労働制）
健康管理者の状況：非常勤 1 名（健康診断・健康相談等の実施）
専用の健康増進施設：フィットネス・ルーム、敷地外にはグラウンド、テニスコートがある

3) 団体名：ハッピーマップ

調査時期・場所・人数

平成 15 年 6 月 中央福祉センター 参加者 10 名

団体概要

バリアフリーマップとして「ハッピーマップ '95」及び「ハッピーマップ 2001」の作成を手がけ、障害のある人の有志とそれを支える一般市民によるボランティア団体として活動しており、マップ作成以外にも本市の福祉活動にも数多く参画しています。

4) 団体名：ゆったり工房

調査時期・場所・人数

平成 15 年 8 月 ゆったり工房 参加者 13 名

団体概要

日進市、東郷町、豊明市に在住の心の病を持った人たちが、医療機関の援助を受けながら、生活訓練、作業訓練を通じて地域で生活する場、社会参加の場として 1996 年 4 月に開所しました。現在は 20 名のメンバーが通所しています。

5) 団体名：商工会女性部

調査時期・場所・人数

平成 16 年 3 月 保健センター 参加者 4 名

団体概要

市商工会の女性部会。定期的に勉強会「商い塾」を開催する他、各種活動を行っています。4 年前から、にっしん鳴子踊りを始め、現在では、500～600 人程の市民が、各地域で活躍しています。

6) 養護教諭

調査時期

平成15年7月（ヒアリングシートを配布回収にて実施）

団体概要

日進市内の小学校・中学校全校の養護教諭

(3) ヒアリング調査結果の概要

ヒアリング調査項目・調査結果は、参考資料のヒアリング調査結果を参照

1) 栄養・食生活

企業

- ・食堂のメニューのカロリー・塩分表示を行っている。
(食堂の無人レジで自動的に表示されるが、見る人はあまり多くない)

各種団体

- ・食生活の摂生が必要である。
- ・どのような生活パターン、食生活などが生活習慣病に結びつくか、具体的に伝えるとよいと思う。

2) 身体活動・運動

企業

- ・利用できる施設はあるが、運動する習慣のある人が少ない。

各種団体

- ・無理をせず、できる範囲で運動を行う。
- ・誰でも自然に楽しく元気になれる鳴子踊りに多くの市民が参加している。

3) 休養・心の健康づくり

企業

- ・メンタルケアとして相談窓口を設置している。

各種団体

- ・ストレスをためないように、リフレッシュできるコツを工夫する。
- ・地域のつながりが日進市に必要と思う。

4) たばこ

企業

- ・たばこの分煙・禁煙について実施はしているが、禁煙の徹底は難しい。

各種団体

- ・たばこは体に悪いのにどうして売っているのか？

5) 歯の健康

各種団体

- ・ 歯科への定期的な検診が必要である。
- ・ 歯みがきの習慣を徹底する。

6) 生活習慣病

企業

- ・ 定期健診を実施している。
- ・ 年 1 回、全社員に健康保険組合の「健康のしおり」配布による情報発信をしている。

各種団体

- ・ 市町村や健康保険組合の検診を受けている。
- ・ 自分が現在どのような生活をしているか気づくことが大切である。

7) 健やか親子・母子保健

栄養・食生活

- ・ 手軽に食べられるファーストフードやコンビニの食べ物によって、生活習慣病への移行が危惧される。
- ・ 食生活の乱れが問題となっている。(偏食や朝食の欠食)

身体活動・運動

- ・ 外遊びの必要性を感じないのか、外で遊べる時間に習い事や塾に行くためか、外遊びをする時間がない子が多い。
- ・ パソコン、テレビ、テレビゲームの普及により、外で遊ぶのではなく、家で遊ぶことが多い。

休養・心の健康づくり

- ・ 就寝時刻の遅さが気になる。(睡眠時間が少ない)
- ・ ゲーム、パソコンの普及により、対人関係の希薄化、コミュニケーション不足になっている。

たばこ・アルコール

- ・親の喫煙・飲酒による子どもへの影響は大きい。
- ・飲酒、喫煙、薬物について正しい知識を子どもたちに伝えることが必要である。

歯の健康

- ・毎日の歯みがきを徹底する。

生活習慣病

- ・子どもの健康づくりは、まず家庭での生活習慣づくりが重要である。

教育

- ・親として子どもの心を理解しようとする姿勢が重要である。
- ・子どもとのコミュニケーションの充実が重要である。

その他

- ・性の逸脱行動が問題になっている。

8) 安全

企業

- ・始業前のラジオ体操（事故防止、健康維持のため）
- ・特にということではないが、工場での作業性の点からも、腰痛などの防止のため、作業台の高さを調節したり、重いものも特殊なキャリアや台車を利用して、女性や高齢者にも配慮している。また作業所内は全館冷暖房が完備となっている。

9) その他

各種団体

- ・ひとり一人が意識して取り組めるようなことができるとよい。
- ・みんなで支え合う健康づくりのプランニングが必要である。
- ・いろいろな活動があっても、積極的な人しか参加しない。